

【合宿テキストから一部抜粋】

第2 マイクを使用しない（音響機器を使用しない）場合の注意点

1 日頃からハーモニカの基礎を磨く。

第1で述べたように、マイクを使う場合は、音響担当者が皆さんの弱点をカバーしてくれます。これに対してマイクを使用しない場合は、当然ですがこれらの調整をすることができません。弱点がもろに出てしまいます。

ですから音量が小さい人は日頃から大きな音を出す。音がキンキンしている人はまろやかな音を出すことを心掛ける。音がブツブツと切れる人はなるべく音を繋ぐことを意識する。・・・このことを日頃から意識してください。これは言い方を変えればハーモニカの基礎を磨くということに他なりません。

2 スケール練習をなるべく大きな音で練習する。

例えば、ウォームアップやトミーライリーのPART 1 (1)のスケール練習曲を日頃からなるべく大きな音で、繰り返し練習することを心掛けてください。車に例えれば、軽自動車ではなく 2,000CC クラスの車に相当するような馬力を付けるのです。これは肺活量を増やすためのルーティンではありません。結果的に心肺機能が強化されると思います。これは①ハーモニカの正確な動きを身に付ける、②音を最大限に引き出す吹き吸いの要領を会得するためのものです。これは繰り返し練習して会得する以外に方法はあります。またこうすることで音そのものが研ぎ澄まされてきます。芯のある音に変化します。

野球選手が何百回、何千回と素振り（すぶり：バットを持ってボールを打たずに振ること）をしたり剣道の選手が素振りをする光景を見られたことがあると思いますが、ハーモニカの練習もこれとよく似ています。

発表会などでは音量が小さな人の場合、ミキサーで音を増幅します。大きな音を出す人も小さな音を出す人も音量がなるべく同じになるように調整します。しかしマイクがない（音響機器を使用しない）場合はどうすることもできません。小さな音しか出せない人は、ダイナミックさに欠けた演奏になります。最悪の場合、客席の最後列の人には聴こえないというケースも出てきます。ですから普段からなるべく大きな音で練習するようにしてください。近所の迷惑になるという人は、月のうちに数回は人のいない公園などで練習することをお勧めします。

3 マイクを使わないときのハーモニカの音量について

(1) 全体的な音量を2割程度アップする。

マイクを使った演奏の場合、通常はミキサー側で音量を増幅します。マイクを使わない場合はそれができません。ですからマイクを使って演奏するときよりも全体的に音量を2割程度アップしてください。下腹にぐっと力を入れて音が前に向かってぐんぐん伸びていくイメージを持って演奏してください。

(2) 大きな音、小さな音を出すときの注意点

試しに次の①②③で示した大きさの音で、5番穴のドの音を4拍ほど長く伸ばしてください。そしてこのとき、口元の緊張に変化がないか、また上歯と下歯の距離に変化がないかどうかを注意深く観察してください。

① 非常に大きな音（フォルティシモ）